

医薬品安全性情報コミュニティの構築 —薬物催奇形性情報の共有に向けて—

○坂本 久美子¹、中田 栄子²、佐々木 幹夫³、A. Ammar Ghaibeh³、
中馬 寛¹、山内 あい子¹

¹徳島大院薬(〒770-8505 徳島県徳島市庄町 1-78-1)

²NTT 東日本関東病院薬剤(〒141-0022 東京都品川区五反田 5-9-22)

³セイラシステム(〒141-0022 東京都品川区五反田 3-16-44 五反田山勝ビル 3F)

【緒言】

現在、医療安全対策として、患者・国民が医療に参加することの重要性が指摘されており、“情報の共有”が強く求められている。我々は、インターネット上の知的共有基盤を通じて医療消費者・医療関係者・創薬研究者の間で医薬品安全性情報が効果的に循環する社会システムとして、「医薬品安全性情報コミュニティ」の構築にむけてのプロジェクトを開始した。

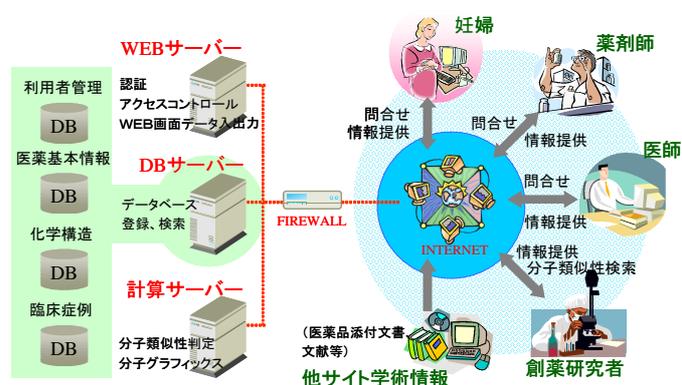


図 1. 医薬品安全性情報コミュニティ・システムの概念図

【方法】

医薬品安全性情報の中でも、薬物催奇形性情報に焦点をあて、3つのデータベース(DB)を構築した。

- 1) 医薬品の名称や薬効、薬物胎児危険度、文献情報、物性情報などを含む医薬品基本情報DB
- 2) 催奇形性が疑われる薬物の化学構造情報に知識を付加し、類似性検索を可能とした化学構造情報DB
- 3) 実際に服用した医薬品や出産結果などのデータを蓄積させる症例情報DB

【結果】

医薬品安全性情報コミュニティ構想の実現により、次のような効果が期待される。すなわち、(1)原著論文を含む薬物催奇形性に関する的確な情報提供が可能となり、医療関係者による根拠に基づいた医療の実践に寄与する。(2)化合物の構造式から催奇形性既知の薬物との類似性が検討でき、情報化学的予測に基づいた新規医薬品の研究開発や催奇形性未知の薬物に対する胎児危険度予測に有用である。(3)新規症例(健常児出産例も含む)の追加登録によりDBの自己成長が期待され、催奇形性に関する薬剤疫学研究的発展にも繋がることから、更に重みのある情報のフィードバックが可能となる。

本研究は科学技術振興機構・社会技術研究開発センター公募型プログラム「社会システム/社会技術論」により遂行中である。

参考文献

- [1] 山内 あい子, 中田 栄子, 中馬 寛: 双方向・成長型薬物催奇形性情報コミュニティの構築, *Journal of Computer Chemistry, Japan*, **2**, 71-78 (2003).
- [2] 山内あい子, 中田栄子, 佐々木幹夫, 後藤尋規, 坂本久美子, 中馬 寛: 医薬品安全性情報コミュニティの構築にむけて, *月刊薬事*, **46**, 133-139 (2004).